

ケトロンまつり



ケトロンまつりの由来

ケトロンまつりは江戸時代から300年以上続いている健康祈禱の念仏行事です。宝塚市北部の大原野地区で疫病が流行った際、十一面観音菩薩様に祈願したところみるみる病が治まっていたという民話が基になっています。昭和51年、宝塚市無形民俗文化財に指定されました。

ケトロンの由来については、行人が突き鳴らす鉦や太鼓の音が「ケトロン」と聞こえるという説や、お盆にお供えする「献燈籠」がなまってケトロンと呼ばれたという説など諸説あります。



ケトロンまつりの内容

例年8月14日、夕方から夜にかけて宝山寺で行われます。大原野地区の子どもたちが西部組、中東部組に分かれ、それぞれが鉦、太鼓、音頭の9人体制で念仏行人を構成します。行人は黒菅笠、浴衣、白櫛、三尺帯、袴、裸足の姿になり、竹につけた六角燈籠を持った役員が四隅を固めます。行人たちは約1時間かけて宝山寺の山門から本堂まで続く階段を少し上っては立ち止まりを繰り返しながら、地域の人々の健康を祈る念仏を唱えます。

行人の配置形



ケトロンまつり

[日時] 8月14日

18:30~21:00

[場所] 宝山寺

〒669-1211兵庫県宝塚市大原野堂坂53



保存団体

宝塚市大原野ケトロン保存会

代表 平井 清文さん

裏面に平井さんのインタビュー記事を掲載しています

形として次世代へと繋いでいく

ケトロンに関する歴史資料の多くは、残念ながら火災などでほとんど残っていません。そこで近年は広報活動の一環として講師を招いて講演会を開いたり、啓発資料の作成などを行ってきました。広報誌や新聞などの紹介記事などを通して、一人でも多くの人にケトロンを知ってもらうことが一番大事であり、続けていくことに価値があります。守り続けてきたものを形に残して後世に伝えていくことこそ、私たち地元の責任だと考えています。



未来につなげるための改革

300年以上続く伝統の中でやり方を変えていった部分も多くあります。その昔、行人は地域の長男のみ9人で構成されていた時期もありましたが、今となっては女の子の行人も珍しくありません。様々な改革を進める中で「自分たちの思いとは違う」と離れていく人もいました。伝統を守り続けることも確かに重要ですが、いろいろな方の意見を聞き入れる体制を取らなければ前に進むことはできません。行人を務める子どもたちやご家族の負担を軽くすることもその一つでした。

また、大抽選会を始めたことで300名以上の方々にはケトロンを見ていただくことができるようになりました。



共有体験から育まれる一体感

行人を務めると「音頭」になるまで9年間、さらにその後は指導者として後進の育成にさらに9年間携わることになります。練習期間は当日までの1週間とはいえ、ライフスタイルが多様化している中で、長きにわたり行人を務めることは容易なことではありません。

ただ、幼児から中学生までいる子どもたちがお互いに教えあうという経験の中で一体感が生まれるため、ほとんどの子どもたちが最後まで務め上げることができるのです。それについては本当に感謝していますし、それこそがケトロンが一番の魅力だと感じております。

ケトロンまつりに参加した子どもたち

Q 9年間経験してきて感じたことはありますか？

A 1年目とか2年目はまだまだ新しい世界だったから全然つかめなかったけど、9年間やってきて、地域の無病息災につながるんだったらやってきてよかったなと思いました。



Q 今後9年間、指導者になるにあたっての心意気などは？

A これまで一緒にやってきた子たちが生徒になって、自分が指導者になるのでこれからもケトロンが続くように一生懸命教えていきたいと思います。

阪神北ふるさと文化の伝承事業の概要

兵庫県阪神北県民局では、地域の伝統文化を次世代に伝承し、住民のふるさと意識を高めるため、平成29年度からこの事業に取り組んでいます。

—コメント—
田辺真人審査委員長
(園田学園女子大学名誉教授)

都市部に近接する農村地帯のケトロンは、子どもたちが継承している阪神北の貴重な民俗文化遺産ですね。



発行／兵庫県阪神北県民局
問合せ先／同県民交流室地域振興課
TEL 0797-83-3133
版下制作／デザインオフィス・イコールライツ

兵庫県ホームページにてケトロンまつりの動画記録や詳細なインタビュー記事などを公開しています。

